

### 3) 余暇活動に於けるソロバン指導を試みて

国立療養所医王病院

中山 緑 小原 照子  
新田 節子

#### 〔はじめに〕

余暇活動の1つとしてソロバン指導を始めてから2年6カ月が過ぎようとしている。S・50年8月、夏休みの学習介助時、4・5人の子供達がソロバンを使って遊んでいたことと「何をして自分のほんとうに得意とするものがなく何か自信のもてるものがあつたらなあ」とつぶやいていたJ子のことを耳にして筋ジストロフィー児(者)は指先の機能が最後まで残るということを知っていたので指先を使ってできるソロバンに着眼し、個人指導を始めた。このJ子がS50年11月に全国珠算教育連盟の検定7.6級に合格したことがまわりの子供達に影響を与え、自主的にソロバンをやりたいという希望児が集まったが小学2.3年生ということもあって比較的活動的ではあるが一つのものに集中、持続するということは日常観察からは余りみられず、3日坊主ではなかろうかと気がかりではあったが真新しいソロバンを片手にどうしてもやりたいという子供達の熱意に動かされJ子をリーダーとして指導を試みた。

#### 〔指導のねらい〕

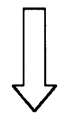
- ① ソロバンを通して集中力、持続力を養う(日課の中に自然に組み込む様にする)
- ② 中2.3年のステージが高く機能の低い者に対しては暗算、応用問題の理解力をつける様にする。
- ③ リーダー格の児童に対しては検定試験を目標に練習を進めることをねらいにした。仲間意識をたかめるために練習日、練習時間、練習方法は子供達の話し合いで決めた。話し合いの結果、練習日は週3回。(面会日、行事の重なった日はしない)練習時間、PM3:00～4:00まで、1人30分程度(希望によっては1時間でも)練習方法、①指の練習50～100回(ソロバンを使わない)②口頭で言った数字を入れる。③各自の練習をはじめる。小学2.3年生に対しては3人が揃うまで、又来ない児に対しては呼びに行き揃ったところで一斉に練習を始め意欲を減退させない為にも簡単な暗算や読み上げ算をし、ライバル意識や気分転換をはかった。まちがった問題に対しては再度やり直す方法をとった。又問題が出来た時は大いにほめることもわすれてはならない様配慮した。

#### 〔結 果〕

このグループは6カ月間継続されたが①位取りの理解に欠ける。②歩行訓練、起立訓練により日課時間帯に於ける練習時間の確保ができなくなった。③中2.3の者は×算÷算、応用計算共に

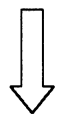
3級程度は理解できる様になるも機能上、もう続けたくないと申し出た。この様な理由で中止した者もいたが現在はJ子とI子の2名が続いている。I子に関しては途中+、-算、 $\times$  + 算に移る段階のたび拒否したが各段階における理解力より続けられると確心したので続けさせた。現在6級の練習をしているJ子に関しては現在2級の練習をしており、2度の検定不合格にもめげず再度検定に臨んで練習にはげんでいる。ソロバンはJ子の特技となっている。今ではソロバンの練習は2人の余暇の中に計画的に組み込まれ自主的に練習する様になっている。今後機能低下を見越し、暗算、応用問題を強化し、ソロバンと内容、方法に共通性のある簿記を指導していくと思う。その他の子供達にも動機づけを行なっていきたい。

	学年	8段階分類法 ステージ	S 51年 1月 ソロバンを 始めた動機	ねらい	練習方法	S51年6カ月 たつての学習 の理解度	やめるにい たった動機
男 M	小2	2	J子検定合格 の影響	集中力、持続 力を養い、日 課の中に自然 に組み込む様 にする。	① 指の練習 50~100回 (ソロバンを 使わないで) ② 口頭で言 った数字を入 れる。 ③ 各自の練 習をはじめる。	・1ケタの+、-算が できる。 ・単純な2ケタの+、- 算ができる。 ・単純な1ケタ の+算ができる。	・起立、歩行訓 練の強化によ り日課時間帯 における練習 時間がとれな くなった。
男 O	小3	3				・2ケタの+、- 算が楽にできる。	継 続
女 I	小2	3				・4級の練習	継 続
女 J	小6	5	5級練習	検定試験を目標 に練習をする。		・3級程度の $\times$ + 算応用計 算の理解がで きる。	・機能上続けたく ない。 ・だいたい基礎 が理解できる様 になったので自 分達の必要な時 にソロバンを使 っていく。
男 E	中2	6	以前に経験があ り興味があるので やってみたい。	暗算や3級以 上の応用問題 の理解力をつ ける。			
男 T	中3	7	興味があるので やってみたい。				



## 検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用

論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



〔はじめに〕

余暇活動の1つとしてソロバン指導を始めてから2年6カ月が過ぎようとしている。S・50年8月、夏休みの学習介助時、4・5人の子供達がソロバンを使って遊んでいたことと「何をしても自分のほんとうに得意とするものがなく何か自信のもてるものがあつたらなあ」とつぶやいていたJ子のことばを耳にして筋ジストロフィー児(者)は指先の機能が最後まで残るということを知っていたので指先を使ってできるソロバンに着眼し、個人指導を始めた。このJ子がS50年11月に全国珠算教育連盟の検定7.6級に合格したことがまわりの子供達に影響を与え、自主的にソロバンをやりたいという希望児が集まったが小学2.3年生ということもあって比較的活動的ではあるが一つのものに集中、持続するという事は日常観察からは余りみられず、3日坊主ではなかろうかと気がかりではあったが真新しいソロバンを片手にどうしてもやりたいという子供達の熱意に動かされJ子をリーダーとして指導を試みた。